

(平成20年度) 千葉県郡市トレセン少年サッカー選手権 5年生大会

予選1次リーグ (20分-5分-20分)

平成21年 1月25日(日)

予備日 1月31日

a
会場

Aブロック	4-2 習志野トレセン	8-5 富津トレセン	5-1 成田トレセン	勝点	得点	失点	得失 点差	順位
4-2 習志野トレセン		a 2 0	a 2 0	6	4	0	4	1
8-5 富津トレセン	0 2		a 1 3	0	1	5	-4	3
5-1 成田トレセン	0 2	3 1		3	3	3	0	2

千葉市立花島小学校

試合開始時間

9:00 ~
12:00 ~

10:00 ~
13:00 ~

11:00 ~
14:00 ~

b
会場

Bブロック	1-3 市川トレセンB	7-1 花見川区トレセン	3-3 白井トレセン	勝点	得点	失点	得失 点差	順位
1-3 市川トレセンB		a 2 1	a 4 0	6	6	1	5	1
7-1 花見川区トレセン	1 2		a 1 1	1	2	3	-1	2
3-3 白井トレセン	0 4	1 1		1	1	5	-4	3

Cブロック	6-5 八街トレセン	3-1 我孫子トレセン	8-4 安房トレセン	勝点	得点	失点	得失 点差	順位
6-5 八街トレセン		b 0 2	b 0 3	0	0	5	-5	3
3-1 我孫子トレセン	2 0		b 3 0	6	5	0	5	1
8-4 安房トレセン	3 0	0 3		3	3	3	0	2

千葉市立宮野木小学校

試合開始時間

9:00 ~
12:00 ~

10:00 ~
13:00 ~

11:00 ~
14:00 ~

c
会場

Dブロック	4-3 船橋トレセンB	7-6 稲毛区トレセン	2-1 松戸トレセン	勝点	得点	失点	得失 点差	順位
4-3 船橋トレセンB		b 0 0	b 0 1	1	0	1	-1	3
7-6 稲毛区トレセン	0 0		b 1 2	1	1	2	-1	2
2-1 松戸トレセン	1 0	2 1		6	3	1	2	1

Eブロック	2-3 野田トレセン	6-2 長生トレセン	8-2 市原トレセン	勝点	得点	失点	得失 点差	順位
2-3 野田トレセン		c 0 2	c 0 2	0	0	4	-4	3
6-2 長生トレセン	2 0		c 2 0	6	4	0	4	1
8-2 市原トレセン	2 0	0 2		3	2	2	0	2

千葉市立大巖寺小学校

試合開始時間

9:00 ~
12:00 ~

10:00 ~
13:00 ~

11:00 ~
14:00 ~

Fブロック	1-2 浦安トレセンA	7-4 千葉中央トレセン	5-3 八千代トレセン	勝点	得点	失点	得失 点差	順位
1-2 浦安トレセンA		c 0 0	c 0 2	1	0	2	-2	3
7-4 千葉中央トレセン	0 0		c 3 1	4	3	1	2	1
5-3 八千代トレセン	2 0	1 3		3	3	3	0	2

(平成20年度) 千葉県郡市トレセン少年サッカー選手権 5年生大会

予選1次リーグ (20分-5分-20分)

平成21年 1月25日(日)

予備日 1月31日

d
会場

Gブロック	6-3 海匝トレセン	3-2 鎌ヶ谷トレセン	5-4 四街道トレセン	勝点	得点	失点	得失点差	順位
6-3 海匝トレセン		d 2 1	d 3 1	6	5	2	3	1
3-2 鎌ヶ谷トレセン	1 2		d 3 5	0	4	7	-3	3
5-4 四街道トレセン	1 3	5 3		3	6	6	0	2

千葉市立越智小学校

試合開始時間

9:00 ~

10:00 ~

11:00 ~

12:00 ~

13:00 ~

14:00 ~

e
会場

Hブロック	5-2 佐倉市トレセン	7-5 緑区トレセン	8-1 木更津トレセン	勝点	得点	失点	得失点差	順位
5-2 佐倉市トレセン		d 0 3	d 0 3	0	0	6	-6	3
7-5 緑区トレセン	3 0		d 0 2	3	3	2	1	2
8-1 木更津トレセン	3 0	2 0		6	5	0	5	1

千葉市立高洲第二中学校

試合開始時間

9:00 ~

10:00 ~

11:00 ~

12:00 ~

13:00 ~

14:00 ~

f
会場

Iブロック	8-6 袖ヶ浦トレセン	4-1 船橋トレセンA	2-2 流山トレセン	勝点	得点	失点	得失点差	順位
8-6 袖ヶ浦トレセン		e 1 3	e 1 2	0	2	5	-3	3
4-1 船橋トレセンA	3 1		e 1 1	4	4	2	2	1
2-2 流山トレセン	2 1	1 1		4	3	2	1	2

千葉市立高洲第二中学校

試合開始時間

9:00 ~

10:00 ~

11:00 ~

12:00 ~

13:00 ~

14:00 ~

Jブロック	1-4 浦安トレセンB	7-3 美浜区トレセン	6-1 山武郡市トレセン	勝点	得点	失点	得失点差	順位
1-4 浦安トレセンB		e 0 3	e 0 3	0	0	6	-6	3
7-3 美浜区トレセン	3 0		e 1 2	3	4	2	2	2
6-1 山武郡市トレセン	3 0	2 1		6	5	1	4	1

千葉市立若松小学校

試合開始時間

9:00 ~

10:00 ~

11:00 ~

12:00 ~

13:00 ~

14:00 ~

Kブロック	6-4 山武市トレセン	1-1 市川トレセンA	3-5 柏トレセン	勝点	得点	失点	得失点差	順位
6-4 山武市トレセン		f 0 10	f 0 16	0	0	26	-26	3
1-1 市川トレセンA	10 0		f 0 2	3	10	2	8	2
3-5 柏トレセン	16 0	2 0		6	18	0	18	1

千葉市立若松小学校

試合開始時間

9:00 ~

10:00 ~

11:00 ~

12:00 ~

13:00 ~

14:00 ~

Lブロック	8-3 君津トレセン	7-2 若葉区トレセン	3-4 印西市トレセン	勝点	得点	失点	得失点差	順位
8-3 君津トレセン		f 0 2	f 1 4	0	1	6	-5	3
7-2 若葉区トレセン	2 0		f 3 0	6	5	0	5	1
3-4 印西市トレセン	4 1	0 3		3	4	4	0	2

● 準決勝 第1試合

木更津トレセン 対 山武郡市トレセン (4-2)

綺麗に整った芝生のグラウンド、スタンドの雰囲気といい最高の施設の中での準決勝第一試合は、山武郡市トレセンのキックオフで始まった。前半は、山武郡市トレセンが先制点を挙げると、すかさず木更津トレセンも反撃するなど、両チームの持ち味をそれぞれに使っての点の取り合いとなったが、結局、3-2で先制された木更津トレセンが1点リードで後半へ折り返すこととなった。後半は、前半とは違って、それぞれのディフェンスが相手の攻撃の目を早めに摘む試合展開となり、一進一退の攻防を続けていたが、木更津トレセンが待望の追加点を得て試合の趨勢を決定的とした後に終了のホイッスルを迎え、木更津トレセンの決勝戦進出が決定した。

○ 木更津トレセン

個々の能力、技術も高くバランスの取れたチームであると感じた。パスを繋ごうと言う意識も全体的にレベルが高く、サイドへの展開を中心として効果的に攻めていた。また、相手DFの状況に応じて、早めのクロス、縦へ深く入ってからクロス、中央からの突破などビルドアップしていこうという工夫も見られ、それを個々の選手が判断しようと努力している様子も見て取れ、これからのプレーヤー個人の成長が楽しみなチームであると感じた。

- 得点) 9分: (3) 関君からのクロスをゴール前で(6)吉見君が落とし、走りこんだ(8)鈴木君がシュート
14分: コーナーキックから(18)坂井君のヘディングシュート
19分: (6)吉見君が抜け出してシュート
35分: (6)吉見君が抜け出して落ちて落ちてシュート

○ 山武郡市トレセン

ボールを奪ったらゴールへの最短距離をたどると言う、サッカーとしてもっともシンプルなプレーでチャンスを作った。しかし、全ての状況がそれで良かったかと言うと、そうでは無い状況もあったのは事実である。状況に応じて、奪ったらすぐにボールを前に離すだけでなく、幅と深さを使ったポジションからの組み立て、展開など、プレーヤーが状況を見て判断することも大事ではないかと感じる点も多かった。力強さがあるだけに、今後期待したいチームと感じた。

- 得点) 7分: 相手ボールを奪った後の素早いカウンターでスペースを活かして(6)宝田君が抜け出してシュート
16分: コーナーキックからのこぼれ球を(9)宮内君が反応よくシュート

お互いにチームの特徴を最後まで出し合い、あきらめずに戦った素晴らしい試合でした。スペースの使い方にはいろいろなアイデアがあるのですが、スペースをタイミングよく「使う」というアイデアだけではなく、スペースを効果的に「創って使う」というアイデアの発揮も、この年代ではイメージができてくることができている試合でした。勝敗は別として、このゲームでできたこと、できなかったことを選手が自分なりに分析して、次のステージにつなげて欲しいと思います。

● 準決勝 第2試合

千葉中央トレセン 対 松戸トレセン (1-2)

千葉中央トレセンのキックオフ、開始直後で堅さの見える松戸トレセンに対して千葉中央トレセンは、積極的にドリブルで仕掛けゲームを優位にすすめ先制するも、松戸トレセンもすぐさま相手のミスを見逃さず同点に追いつき前半を折り返す。後半に入りお互い効果的な攻撃を出せずにいたが、前がかりになった千葉中央トレセンの隙をつき松戸トレセンが逆転ゴール。少ないチャンスをゴールに結びつけた松戸トレセンが、決勝へと勝ち上がった。

○ 千葉中央トレセン

スピードのあるドリブルで積極的にしかける姿勢とスキルは高く、突出したアジリティーやスキルを持った選手もいて局面で個のレベルの高さを感じた。基本的なパスやコントロール、中距離のグランダーパスもしっかり蹴れている。しかし、ハイプレッシャー下や動きながらの状態では極端に精度が落ちてしまい、ミスする場面も多く見られ、今後相手のいる状況や動きながらのスキル向上が必要と感じた。

得点) 12分: DF(17)大塚君から絶妙なスルーパスをFW(10)宮崎君がドリブルでDFを振り切りシュートを放つがクロスバールバウンドボールをFW(11)中村君がダイレクトシュート

○ 松戸トレセン

守備の基本である積極的にボールを奪いに行く意識が高く、各選手が守備ではハードワークしていたが、攻撃面ではボールを持っている選手に対して関わろうとする選手が少なく、また、動きながらボールを受けようとする意識も足りないためボール保持者に対して複数の選択肢(パスコース)をつくれずに単調な攻撃が目立っていた。今後、攻守に関わり続ける、動きながら考える事を習慣化させる必要を感じた。

得点) 15分: 中央DFからGKへのバックパスが芝でボールが走らないピッチでパスが弱くなったのを見逃さずFW(30)高島君がボールを奪いシュート
31分: FW(30)高島君が右サイドから抜け出し折り返したところをFW(29)武井君がシュート

この年代で獲得すべき課題、「動きながらの基本スキル」、「攻守に関わり続ける」などが習慣化され、ゲームで発揮できるように公式戦という選手の高いモチベーションを利用しながら個のレベルアップによる大会勝利を追及したい。

● 決勝

木更津トレセン 対 松戸トレセン (3-4)

日本サッカーの強化、発展を目的とし、個を高めていく事を目標に各地域でさまざまな活動、取り組みが行われています。そして、このトレセン大会において決勝に勝ち上がった2地域の戦いは松戸トレセンのキックオフで試合が始った。試合開始早々パワーとスピードで勝る松戸トレセンが主導権を握り優位にゲームを進めるが得点できない。木更津トレセンは我慢の展開であったが0-0で折り返す。後半に入り前半とは打って変わり激しい点の取り合いになった、お互い3点ずつゴールを決めても決着がつかず延長戦へ、延長前半 松戸トレセンがFKで決勝点を上げ、優勝旗を手にした。

○ 木更津トレセン

全体的に攻撃面において各選手が関わりを持とうとしていた、パスをしっかりと繋ごうという意識も高く、ポジションにとらわれず積極的にハードワークしていた。また、GKは意識して良い準備をすることで、シュートコースを消し、躊躇せず前に出ていた。守備面では積極的にボールを奪いに行く意識があり、チャレンジの意識は良いのだが、やみくもに突っ込むようなプレーも多く、「マークの原則」、「チャレンジの優先順位」といった個人レベルでの守備原則を理解し、ボールの奪いどころを整理する必要があると感じられた。

得点) 27分: 直接狙ったFKにGKが弾いたところをFW(3)関君が押し込みゴール

30分: ミドルレンジから積極的に狙ったシュートは綺麗な弧を描きゴールに吸い込まれた。FW(10)小笠原君

分: 左サイドからファーストコントロールでペナルティーエリアに入りシュート FW(6)吉見君

○ 松戸トレセン

今大会、圧倒的な得点能力で勝ちあがり決勝戦も点の取り合いを制して見事優勝した松戸トレセン。相手DFの背後狙う攻撃が多く、もちろんダイレクトプレーという狙いを持った攻撃をする事は攻撃の優先順位の一番であるが、相手DF2~3人に対してソロカウンターになってしまうケースもあり、その場合あきらかに得点の可能性が低くなるばかりか、ボールを失っている状況も多かった。相手DFのミスにより得点が生まれる事があったが、相手や味方、スペースを観て突破が無理ならボールを保持しながら組み立てなおすという攻撃も必要だと感じた。

得点) 23分: FW(29)武井君 ドリブルで切り込みシュート

36分: CKからのこぼれ球をFW(31)宇田君がミドルシュート

40分: CKからDF(38)崎山君がヘディングシュート

43分: FKをMF(25)工藤君が直接決めて決勝点

今大会、両チームは重要な場面であきらめないメンタリティーを発揮し、勝ち上がってきた。決勝戦でもビハインドを終了間際で追いつき延長戦へ持ち込んだ松戸トレセンのメンタリティーの強さは評価したい。また、育成年代ではすべての選手に多くの出場機会が確保され、いろんなポジションを経験しながら学べるような試合が望ましい。今大会を通して見て、残念ながら一度も試合に出る事のできなかった選手、仮に出られても終了間際に一度もボールを触ることなく終わってしまう選手もいた。タイトルのかかった選手権という舞台ではあるが、可能な限り育成年代として取り組む必要を感じた。今大会で多くの選手に経験をさせながら優勝を果たした松戸トレセン、今後の活動に大きな成果が現れる事を期待します。